

# 南の風

- ・巻頭言
- ・学習のあしあと（1学期前半）
- ・安全な夏休みに
- ・8月、9月の予定



## 夏休みだからこそ・・・

校長 若狭 陽一

「夏休みだからこそ、普段できないようなことに挑戦してみましよう」とは、この時期によく耳にする言葉です。確かに、イベント等で得た「自分は家族や地域の一員である」という実感や大きな取組で得た達成感は、子どもの成長にはとても大切なことです。しかしながら、普段できないような「特別なこと」は、長期の夏休みであっても、そう多くは存在しないのも事実です。「特別なこと」がないと、多くの子どもは「夏休みじゃない。つまらない。」と言いがちです。

私は、子どもたちに、「特別なこと」とは何かを考え直し、夏休みだからこそ普段の生活を大切にしてもらいたいと考えます。

連日、大谷選手の活躍が報道されていますが、大谷選手より昔にMLBで活躍した「努力の天才」と言われたイチロー選手は、次のように言っています。

特別なことをするために特別なことをするのではない、特別なことをするために普段どおりの当たり前のことをする。

イチロー選手のルーティンは有名です。打席に入ったときのパフォーマンスはもとより、普段の生活でも食事や睡眠など事細かに決めています。10年以上も毎朝、カレーを食べ続けた話は有名ですね。

ここで大切なのは、イチロー選手の言う「特別なこと」です。

そりゃ、僕だって勉強や野球の練習は嫌いですよ。誰だってそうじゃないですか。つらいし、大抵はつまらないことの繰り返し。でも、僕は子どものころから、目標を持って努力するのが好きなんです。だってその努力が結果として出るの嬉しいじゃないですか。

首位打者のタイトルは気にしない。順位なんて相手次第で左右されるものだから。自分にとって大切なのは自分。だから、1本1本重ねていくヒットの本数を自分は大切にしている。

これらの言葉から推しはかると、イチロー選手の特別なこととは、目標を達成することでありその目標も、「ヒットを〇本打つ」とか、「イメージしたとおりのヒットが打てるようになる」などのような、自分自身の理想の姿だと言えるのではないのでしょうか。決して、他との比較ではないことが分かります。

夏休みは、忙しい毎日から解放されます。じっくりと自分に向き合える夏休みだからこそ、イチロー選手を参考に、普段の生活を次のように大切にしてもらいたいです。

- ① 「〇〇ができるようになる」のような自分自身の理想の姿を毎日意識する
- ② ゴールに向かうために「〇時になったら、△をする」のような毎日のルーティンを確立する

例えば、「自分から進んで勉強ができるようになる」姿を思い描いたとしましょう。しかし、初めから勉強できる人はほとんどいません。「進んで勉強する」という意欲に繋がる「勉強が楽しい」という感覚は、勉強を始めてある程度時間が経過しないと起こらないそうです。まずは、「朝8時になったら机に向かう」といったように、毎日のルーティンを子どもたちに意識させてはいかがでしょうか。